

教13 本校における昨年度初級遺伝子分析科学認定士試験結果の報告

○嶋津 翔太(しまづしょうた)、生江 麻代、香取 尚美、岸野 沙耶花、細口 愛美華、谷口 智也、望月 泰男、
山藤 賢

昭和医療技術専門学校 臨床検査技師科

【はじめに】本校では第3学年次において、初級遺伝子分析科学認定士試験が施行された第1回から毎年任意にて受験し続けており、これまでも本学会で報告してきた。昨年度3年生においても在籍38名中27名が受験を希望し、全員が合格することができた。その成果と取り組みについて報告する。

【対象】令和6年度臨床検査技師科第3学年生、38名を対象とする。

【実施内容】令和6年3月から計10回の講義及び実技練習、動画対策を行っている。講義については日本臨床検査同学院版『遺伝子検査技術 改訂第3版』、医歯薬出版(株)『遺伝子・染色体検査』を用い、過去問に準じた模擬試験を5月～直前まで5回行った。学生は4月より臨地実習が始まったため土曜日のみ試験対策日とし、対面授業とオンラインを活用し、模擬試験においては<Microsoft Teams>を利用した。また、学生には模擬試験の解説を配布し自宅学習に役立てた。

【結果】第18回 初級遺伝子分析科学認定士の受験者227名、合格者191名で全国での合格率は84.1%であった。本校学生は27名が受験し、100%合格を出すことがで

きた。発表後、学生アンケートを実施し、学内での対策が充実していたという意見が多くある一方、臨地実習との両立が困難であったという意見も例年同様みられた。

【考察】受験希望者は遺伝子の勉強について興味がある者もいるが、苦手である学生も多くみられた。ただ、受験に対する取組みについては全員努力したという自己評価をしていた。試験日には特に筆記試験で意気消沈したが、動画試験や実技試験は自信をもって解答できたという意見が大半であった。復習できるオンラインでの模擬試験も力になったようである。毎年、臨地実習との両立に悩む学生が多くいるが、挑戦することにより、たとえ、合格が得られなくてもそのプロセスに意味があると学校としては考え支援している。この学年は国家試験においても、全員卒業し全員で合格できた。その前向きな思いと結果は、将来においても必ず役に立つ財産になるであろう。また、受験者は、例年、後輩にもこの経験を良きアドバイスとして伝えてくれており、受験希望者が途絶えたことはない。そんな学生達をととても誇りに思う。